

eitoeiko より展覧会のご案内です。

トミノ見えざる手

五島一浩、古屋郁、吉田山、吉田有紀

寄稿 茂田有徳、村雨ケンジ他

11/6(土)~11/27(土)

「日本文化をめぐる4つの展覧会」より

日頃より大変お世話になっております。11月6日より11月27日まで開催の第3回展「トミノ見えざる手」では、日本のアニメーションに多大な影響を与えた富野由悠季監督の作品と、18世紀英国の経済学者アダム・スミス思想を通じて、1970年代後半から21世紀のマスメディアを考察します。一般に子供向け映像アニメーションとして解釈されている「機動戦士ガンダム」などで知られる富野監督は、16世紀英国の劇作家シェークスピアから物語の構図を引用しており、人間の幸福の探求というテーマには相通じるものがあります。アダム・スミスもまた同じく啓蒙の世紀の哲学者でした。これらを踏まえて、五島一浩、古屋郁、吉田山、吉田有紀の作品と、同展に寄稿した村雨ケンジ、美術ライター茂田有徳らを迎え、展示とともに同人誌を発行いたします。

展覧会について

「トミノ見えざる手」はアダム・スミスの「神の見えざる手」のもじりで、スミスの「個々の利益の追求が、意図せずして公共の富をもたらす」という発想を、「個々の表現の追求が、意図せずして富野の影響下にある」状態を示し、本展はそれを様々な角度から検証していきます。富野由悠季は「機動戦士ガンダム」「伝説巨神イデオン」「戦闘メカ ザブングル」「聖戦士ダンバイン」「Gのレコンギスタ」などに代表される数多くのロボットアニメを監督したTVアニメーション番組の名監督です。児童向け商業アニメーションの分野における富野氏の発意と工夫が数多くの富野チルドレンを生み、国内のみならず世界中に与えた影響は計り知れないものがあります。その制作手法はアニメーションをうごく紙「芝居」ととらえた画期的なものでした。そして、ここでもういちどアダム・スミスの『国富論』—正式には『国の富に関する性質と要因の研究 An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations』を振り返ってみると、国富論のキーワードは、富野アニメに見られる登場人物たちの「社会分業」に描かれ、あるいは架空の政府に見られる「国防」「司法行政」「公共設備」などの問題点は、まさにガンダムの宇宙世紀などで描かれる世界の構造にあてはまります。本展は幼少期に期せずして監督に導かれたことによって、振り返ってスミスの見えざる手までを感じ取る、視覚体験を通じて感得する展覧会となります。

出展作家(五十音順)

五島一浩

1969年静岡生まれ。京都工芸繊維大学卒業。イメージフォーラム映像研究所専任講師。映像・メディアアート作家として活動する。第18回メディア芸術祭アート部門優秀賞(2014)。アルスエレクトロニカ Award of Distinction(2014)ほか受賞多数。主な参加展に画家の不在(個展 3331 アーツ千代田 2020)、めがねと旅する美術展(カマタソーコ、青森県立美術館、島根県立石見美術館、静岡県立美術館 2018)、チリメディアアートビエンナーレ(サンティアゴ 2015)ほか。

古屋郁

1991年東京生まれ。2016年武蔵野美術大学大学院修了。2016~17年リトアニア・ヴィリニユス芸術アカデミー在籍。Bunca コラム連載中。ロゴマークやキャラクターデザインなども手掛ける。主な展示に TRANSITIONS(中国版画美術館 深セン 2015)、セントニクラスプリントビエンナーレ(SteM Zwijgershoek 2017)、SHIBUYA AWARDS(Bunkamura wall gallery 天野タケル賞)、AOMORIトリエンナーレ(2018)、SICF19(SPIRAL)、Salon des

Beaux-Arts(Carrousel du Louvre)、おばけフクロウの森(個展 eitoeiko 2019)、ゆら
ゆら まにまに きらきら(個展 bonon 京都、eitoeiko 2021)など。

吉田山

散歩詩人。富山生まれ。作家活動と並行してアートスペースのディレクターとして TOH(2021
～)、FL田SH(2018～2020)、展示企画として RISO IS IT(OIL by 美術手帖ギャラリー 渋谷
PARCO 2020)などアートの周縁を攻める幅広い活動を展開する。

吉田有紀

1971年神奈川県生まれ。1997年多摩美術大学大学院修了。2000年五島文化財団新人賞受賞。
同年ロンドン大学スレード美術学校に学ぶ。2016年～21年武蔵野美術大学非常勤講師。主な
参加展に「日本画」から「日本画」へ(東京都現代美術館 2006)、美の潮流(Bunkamura ザ・
ミュージアム 2010)、Look for the Silver Lining(個展 eitoeiko 2020)、
Somewhere the Sun Shines(個展 bonon kyoto 2021)、META(神奈川県民ホール
ギャラリー 2021)、現代日本画の系譜ータマビ DNA(アートテークギャラリー 2021)など。

寄稿

茂田有徳

1967年福岡生まれ。おそらく日本で一番仕事の少ない美術ライター。季刊『てんぴょう』(アート
ヴィレッジ)等での評論活動の他、「ボーム エロティカ・ジャポン」展(モマ・コンテンポラリー 福岡
2004)など展覧会のキュレーションも数本手がけている。機械フェチで模型と玩具が大好き。

村雨ケンジ

1963年生まれ。1992年シカゴ美術館附属大学大学院修了。2012年～北海道教育大学教授。
本名・伊藤隆介の名で美術家、映像作家として活動のほか、1980年代よりライターとして各誌
にマンガ等のサブカルレビューを執筆多数。主な参加展に富野由悠季の世界(青森県立美術館
2021)、Domestic Affairs(個展 児玉画廊 | 天王洲 2020)、札幌国際芸術祭(2017)、ラ
ブラブショー 2(青森県立美術館 2017)のほか多数。

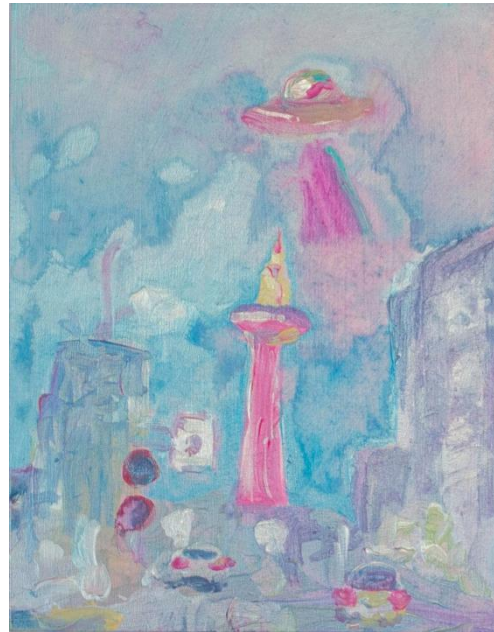
他

出品作品



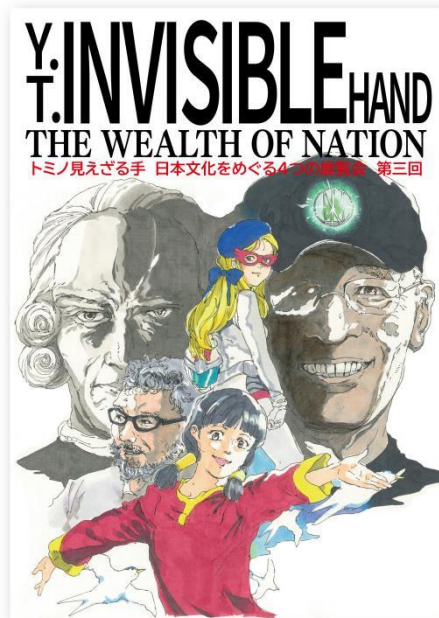
五島一浩
私/私達は見ていた(部分)
2021

古屋郁
UFO と京都タワー
「愛の戦士と乙女のポリシー」より
2021



吉田山
ダイニングメッセージ『攪拌する台所では富の
再分配に関するダイニングメッセージが書かれ
ていた』（参考画像）
2021

吉田有紀
式百式(部分)
2021



同人誌
『トミノ見えざる手』
表紙 2021

展覧会情報

展覧会タイトル: トミノ見えざる手
出展作家: 五島一浩、古屋郁、吉田山、吉田有紀
寄稿: 茂田有徳、村雨ケンジ他
会期: 11月6日(土)~11月27日(土)
開廊時間: 12時~19時
休廊日: 毎週日、月、祝

会場名: eitoeiko(エイトエイコ)
住所: 〒162-0805 東京都新宿区矢来町 32-2
連絡先: 03-6873-3830
ウェブサイト: www.eitoeiko.com
担当: 癸生川 ei@eitoeiko.com